

プロジェクト名 北大金葉祭

代表/米岡 宏喜 農学部 森林科学科 2年

■実施の内容

2016年4~5月

新歓活動（1年生4名、2年生1名、3年生1名）
物品確認

7月

各部門の担当決定

昨年度の反省を元に部門の方針を決定

新企画の草案の作成（今年度は自然工作・実験部門に力を入れることとし、そこを重点的に話し合った）

8月

企画の決定（昨年同様のライトアップ・屋台、自然工作にトチブエとドングリゴマ、ヤジロベエ製作の追加、実験に顕微鏡を用いた観察の追加）

決定した内容をもとに必要な物品を確認

部門以外の全体的な部分で必要な物品・機材の確認

9月

各部門の話合い

参加希望団体と話合い

レンタル機材・購入物品の決定

10月

各企画の準備、物品の購入、レンタル機材の発注、保険への加入

当日ボランティアの募集と説明会

金葉祭当日（10月29日・30日 両日とも10時から21時まで開催）

- ・自然工作体験、実験教室は10時から17時までの予定であったが、日没の時間により16時30分までに変更。落ち葉のしおり・小物・トチブエ・ドングリゴマ・ヤジロベエの製作、落ち葉のプール、葉脈標本作製、銀杏の変色実験、顕微鏡を用いた観察実験等を開催。
- ・模擬店は10時から21時まで、豚汁・じゃがバター・やきいも・わたあめを提供。
- ・投光器60台による銀杏並木の全面ライトアップは18時半から21時まで。イチョウ並木の一般開放の時間帯以外は常に交通誘導員を配置。

【広報活動】

- ・北大とその周辺にポスターを掲示。
- ・情報サイト等（学ナビ、北海道ラボ、じゃらん）への掲載。
- ・STVラジオ「日高晤郎ショー ひるノリ歌謡曲」に出演。

■実施時期

2016年10月29日（土）・30日（日）

■実施の評価

【良かった点】

- ・ 昨年の反省を踏まえて、自然工作と実験教室のテントを大きくして内容をより充実させたところ、昨年以上に人気が出た。
- ・ 発電機、投光器、配線の位置をマニュアル化したことにより、これ以上ないと思えるほど準備の効率化が図られた。
- ・ ハロウィンが近かったためハロウィンにちなんだ飾りつけを行ったところ非常に評判が良かった。
- ・ 悪天候や寒さへの対処として、休憩所のテントの大型化とストーブの設置を行ったところ、多くの方に利用していただけた。
- ・ 来場者とよくコミュニケーションをとることができた。応援、励ましの言葉をたくさんいただいた。日本の方だけでなく海外からの観光客とも交流することができた。

【反省点】

- ・ パフォーマンス団体の誘致に関して共催した団体に多くを任せてしまった。
- ・ 前年度からの引継ぎが全体的にうまくいっていなかった。
- ・ 実行委員の仕事がうまく分配されていなかった。
- ・ 新企画の発案に非常に難儀した。昨年より祭自体の規模は大きくなったが、内容は保守的なものになってしまった。
- ・ 新企画に関しては祭に参加したことがない1年生が、固定観念にとらわれず考えるのが良いと思われる。

■構成員

氏名	学部・研究科名	学科・専攻名	学年
辻 脩志	工学部	環境社会工学科	4
永井 舜	文学部	人文科学科	4
池本 敦貴	工学部	機械知能工学科	4
市川 瑠	工学部	環境社会工学科	4
小笠原 央	工学部	応用理工系学科	3
石橋 徹也	工学部	応用理工系学科	3
竹生 陽介	経済学部	経済学科	3
服部 遥子	農学部	生物資源科学科	2
小山田優輔	農学部	応用生命科学科	2
西角 成美	農学部	農業経済学科	2
榎本 大輔	薬学部	薬科学科	2
水野 麗	教育学部	教育学科	2
小林絵麗菜	法学部	法学課程	2
大場 誉幸	総合教育部		1
堀内 千里	総合教育部		1
楠 銀河	総合教育部		1
平野宗太郎	総合教育部		1

■自己採点

【採点項目】

- 当初の目的を達成できた
- 期待される成果・効果をあげられた
- 自主性・創造性を発揮できる機会となった
- 今後の学生生活に役立つ経験であった
- 修学及び研究意欲を高めることができた

5：特にあてはまる

4：あてはまる

3：まああてはまる

2：あまりあてはまらない

1：まったくあてはまらない

